

# 2021年度第1四半期決算説明資料

---

Financial Results for First Quarter FY2021  
(for the year ending March 31, 2022)

2021年8月5日

川崎重工業株式会社



 **Kawasaki**  
Powering your potential

# 0 目次

1

## 2021年度1Q決算実績

サマリー	3
セグメント別	4
損益計算書	5
営業損益増減要因	7
貸借対照表	9
キャッシュ・フロー計算書	11

2

## 2021年度業績予想

サマリー	13
セグメント別	14

3

## セグメント別詳細情報

航空宇宙システム	15
車両	19
エネルギーソリューション&マリン	23
精密機械・ロボット	27
モーターサイクル&エンジン	31

4

## 株主還元、その他

株主還元	35
プロジェクトトピックス	36
参考資料	39

### ご注意

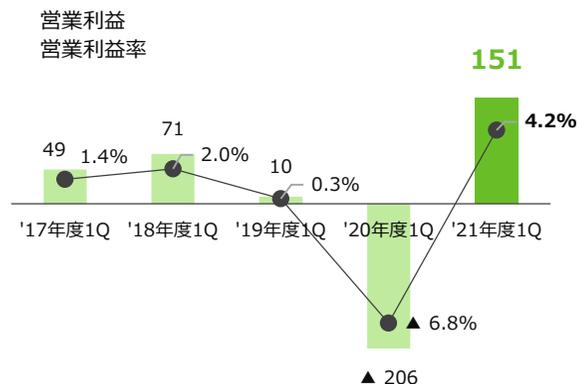
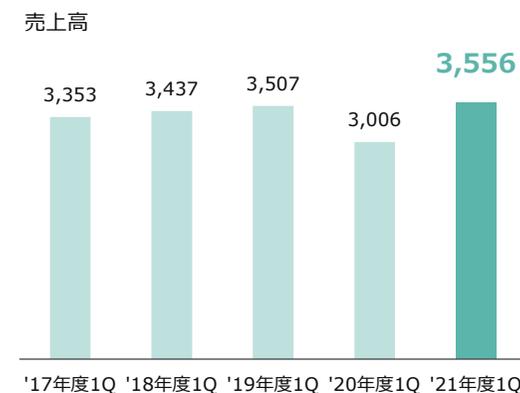
本資料のうち、業務見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で把握可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみには依拠して投資判断を下すことはお控え下さるようお願い致します。実際の業績は、外部環境および内部環境の変化によるさまざまな重要な要素により、これらの見通しとは大きく異なる結果となり得ることを御承知おき下さい。実際の業績に影響を与える重要な要素には、当社の事業領域をとりまく経済情勢、対米ドルをはじめとする円の為替レート、税制や諸制度などがあります。

# 1 2021年度1Q決算実績 - サマリー

- ✓ 新型コロナウイルスの影響が減退し、売上・利益とも大幅な改善
- ✓ 1Qの営業利益としては過去10年来最高('13年度1Q 167億円)に匹敵する水準

(単位：億円)

	'20年度1Q	'21年度1Q	前年同期比 増減	
受注高	2,482	<b>3,042</b>	+	559
売上高	3,006	<b>3,556</b>	+	550
営業損益	▲ 206	<b>151</b>	+	358
	[利益率] [▲ 6.8%]	[4.2%]		[11.1pt]
経常損益	▲ 189	<b>131</b>	+	320
	[利益率] [▲ 6.2%]	[3.6%]		[9.9pt]
親会社株主に帰属する 四半期純損益	▲ 117	<b>98</b>	+	216
	[利益率] [▲ 3.9%]	[2.7%]		[6.6pt]
売上加重平均レート(USD)	106.29	<b>110.71</b>	+	4.42
損益影響外貨量(USD) <sup>※</sup>	2.4	<b>4.2</b>	+	1.8



※ 川崎重工業単体のドル建売上からドル建仕入を控除して算出（損失引当済み案件のドル建売上を含む）した外貨量であり、為替レートが1円変動することによる営業利益への概算影響額。当該数値のセグメント別内訳はP.41を参照

# 1 2021年度1Q決算実績 – セグメント別

- ☑ 航空宇宙システムは旅客需要の回復に伴い大幅に改善するも赤字継続 ①
- ☑ MC&Eは先進国の旺盛なアウトドア需要を背景に大幅な増収・改善 ②

(単位：億円)

	受注高			売上高			営業損益		
	'20年度1Q	'21年度1Q	増減	'20年度1Q	'21年度1Q	増減	'20年度1Q	'21年度1Q	増減
航空宇宙システム	454	<b>374</b>	▲ 79	746	※1 <b>700</b>	▲ 45	▲ 175	※1 <b>▲ 51</b>	+ 123
車両	187	<b>93</b>	▲ 94	323	<b>287</b>	▲ 35	▲ 14	<b>▲ 8</b>	+ 6
Iネット・ソリューション&マリ	562	<b>609</b>	+ 46	722	<b>703</b>	▲ 19	11	<b>▲ 3</b>	▲ 15
精密機械・ロボット	507	<b>651</b>	+ 144	454	<b>576</b>	+ 122	13	<b>51</b>	+ 37
モーターサイクル&エンジン	589	<b>1,135</b>	+ 545	589	<b>1,135</b>	+ 545	▲ 59	<b>148</b>	+ 207
その他	180	<b>178</b>	▲ 2	169	※1 <b>152</b>	▲ 17	▲ 1	<b>6</b>	+ 7
調整額※2	-	-	-	-	-	-	19	<b>9</b>	▲ 9
合計	2,482	<b>3,042</b>	+ 559	3,006	<b>3,556</b>	+ 550	▲ 206	<b>151</b>	+ 358

※1 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)の適用により、従来の方法に比べて、航空宇宙システムセグメントの売上高で約▲123億円、営業利益で約+10億円、その他セグメントの売上高で▲47億円の影響が生じています

※2 「調整額」には、本社部門で発生する費用で社内管理上各部門への配賦を行わない費用等を含みます

# 1 2021年度1Q決算実績 – 損益計算書

(単位：億円)

	'20年度1Q	百分率	'21年度1Q	百分率	増減
売上高	3,006	100.0	<b>3,556</b>	100.0	+ 550
売上原価	2,783	92.6	<b>2,936</b>	82.6	+ 152
売上総利益	222	7.4	<b>620</b>	17.4	+ 397
販売費および一般管理費	429	14.3	<b>468</b>	13.2	+ 39
うち 給料および手当	134		<b>139</b>		+ 5
研究開発費	81		<b>88</b>		+ 7
その他	213		<b>240</b>		+ 27
営業損益	▲ 206	▲ 6.9	<b>151</b>	4.3	+ 358
営業外損益	17		<b>▲ 20</b>		▲ 37
うち 為替差損益	23		<b>▲ 7</b>		▲ 30
金融収支（受取配当金含む）	▲ 7		<b>▲ 4</b>		+ 3
持分法による投資損益	▲ 0		<b>▲ 10</b>		▲ 10
その他	1		<b>1</b>		+ 0
経常損益	▲ 189	▲ 6.3	<b>131</b>	3.7	+ 320

## 要因説明

- ① 主にモーターサイクル&エンジンにおいて販売費が増加
- ② USD/JPYのレート差  
'20年度期末日レート 110.72円  
'21年度1Q末日レート 110.61円
- ③ 船舶NACKS・DACKSは元高および鋼材価格の上昇により減益

# 1 2021年度1Q決算実績 – 損益計算書

(単位：億円)

	'20年度1Q	百分率	'21年度1Q	百分率	増減
経常損益	▲ 189	▲ 6.3	<b>131</b>	3.7	+ 320
特別損益	48		<b>15</b>		▲ 32
うち 固定資産売却益	<b>5</b> 32		<b>4</b> 16		▲ 16
関係会社株式売却益	<b>6</b> 15		-		▲ 15
減損損失	-		<b>7</b> ▲ 0		▲ 0
税金等調整前四半期純損益	▲ 141	▲ 4.7	<b>146</b>	4.1	+ 287
法人税等	<b>8</b> ▲ 23		<b>43</b>		+ 66
非支配株主に帰属する四半期純利益	0		<b>4</b>		+ 4
親会社株主に帰属する四半期純損益	▲ 117	▲ 3.9	<b>98</b>	2.8	+ 216

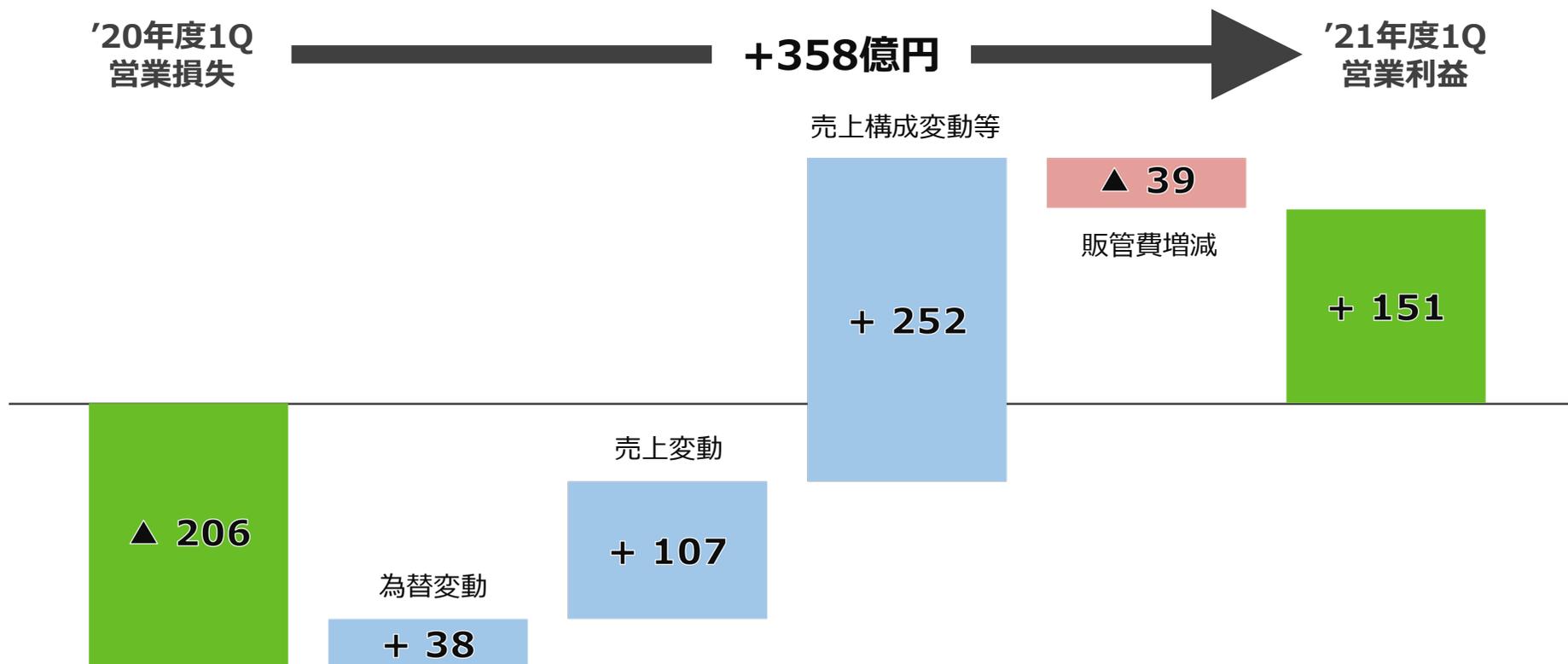
## 要因説明

- ④ 土地の売却
- ⑤ 寮・社宅の売却
- ⑥ エネルギー・環境プラントでの関係会社株式売却
- ⑦ 船舶坂出工場における新規取得資産の減損
- ⑧ '19年度決算時点の将来計画に基づき、繰延税金資産を計上

(注) '20年度2Qおよび3Q決算では'20年度以降の将来計画を見直し再策定した結果、繰延税金資産の一部取り崩しを行ったため法人税等が費用側へ大きく変動

# 1 2021年度1Q決算実績 - 営業損益増減要因

- ✓ 売上変動の約8割、売上構成変動等の約4割がモーターサイクル&エンジン
- ✓ 航空宇宙システムでは前年同期に大きな負担となったエンジン整備費用が縮小



(単位：億円)

	'20年度1Q 営業損益	増減要因				増減計	'21年度1Q 営業損益
		為替変動※ (粗利影響)	売上変動※	売上構成 変動等※	販管費 (▲は増加)		
航空宇宙システム	▲ 175	6	9	107	1	123	▲ 51
車両	▲ 14	▲ 0	▲ 4	10	▲ 0	6	▲ 8
IT・デジタルソリューション&マシン	11	▲ 0	▲ 3	▲ 6	▲ 6	▲ 15	▲ 3
精密機械・ロボット	13	0	21	21	▲ 5	37	51
モーターサイクル&エンジン	▲ 59	33	84	109	▲ 19	207	148
その他	▲ 1	▲ 1	0	8	0	7	6
調整額	19			1	▲ 10	▲ 9	9
合計	▲ 206	38	107	252	▲ 39	358	151

※ 増減要因のうち、為替変動、売上変動および売上構成変動等は、当社が一定の基準を定めて算出した概算値です。

また、それぞれの増減要因は不可分であることも多く、特に売上変動と売上構成変動等は合算した金額を確認することが望ましい場合があります

※ 「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2020年3月31日）の適用により、航空宇宙システムにおいて営業利益で約+10億円の影響が生じており、当該影響は売上構成変動等に含めて表示しています

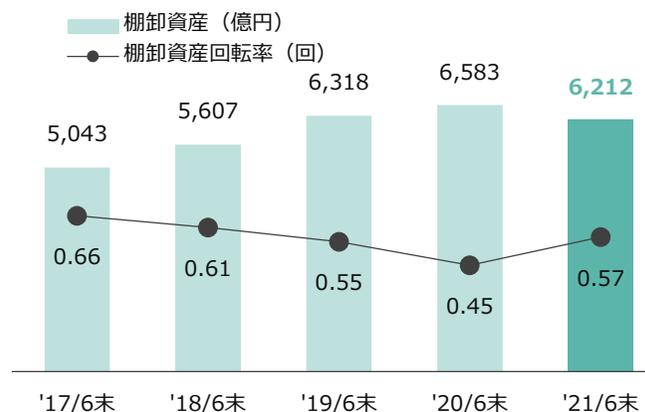
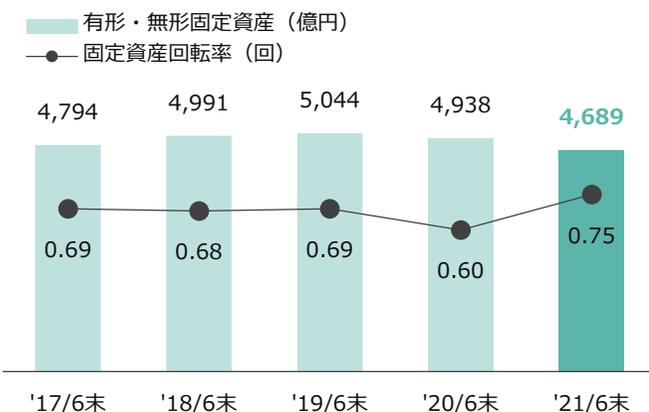
# 1 2021年度1Q決算実績 – 貸借対照表

(単位：億円)

	'20年度末	百分率	'21年度 1Q末	百分率	増減
現金および預金	1,267		<b>1,220</b>		▲ 46
売掛債権	4,604		<b>4,100</b>		① ▲ 504
棚卸資産	6,585		<b>6,212</b>		② ▲ 373
その他	397		<b>740</b>		+ 343
流動資産 計	12,854	65.5	<b>12,273</b>	62.8	▲ 580
有形・無形固定資産	4,736		<b>4,689</b>		▲ 47
繰延税金資産	704		<b>816</b>		+ 111
その他	1,337		<b>1,759</b>		② + 421
固定資産 計	6,778	34.5	<b>7,265</b>	37.2	+ 486
資産合計	19,632	100.0	<b>19,538</b>	100.0	▲ 94

## 要因説明

- ① 収益認識会計基準適用に伴い、航空エンジン事業における売掛金の一部（約220億円）を期首剰余金調整として減額  
  
また、プラント事業やMC&Eで債権回収が進捗
- ② 収益認識会計基準適用に伴い、航空エンジン事業における仕掛品の一部（約440億円）を投資その他の資産に振り替え



# 1 2021年度1Q決算実績 – 貸借対照表

(単位：億円)

	'20年度末	百分率	'21年度 1Q末	百分率	増減
買掛債務	3,551		<b>3,148</b>		<b>① ▲ 403</b>
有利子負債	5,933		<b>6,449</b>		<b>② + 516</b>
契約負債（前受金）	1,532		<b>1,600</b>		+ 67
受注工事損失引当金	142		<b>124</b>		▲ 18
民間航空エンジンの運航上の問題に係る引当金	59		<b>50</b>		▲ 9
その他	3,584		<b>3,602</b>		+ 18
負債計	14,805	75.4	<b>14,976</b>	76.7	+ 171
株主資本	4,654		<b>4,356</b>		<b>③ ▲ 297</b>
その他	173		<b>204</b>		+ 31
純資産計	4,827	24.6	<b>4,561</b>	23.3	▲ 265
負債・純資産合計	19,632	100.0	<b>19,538</b>	100.0	▲ 94

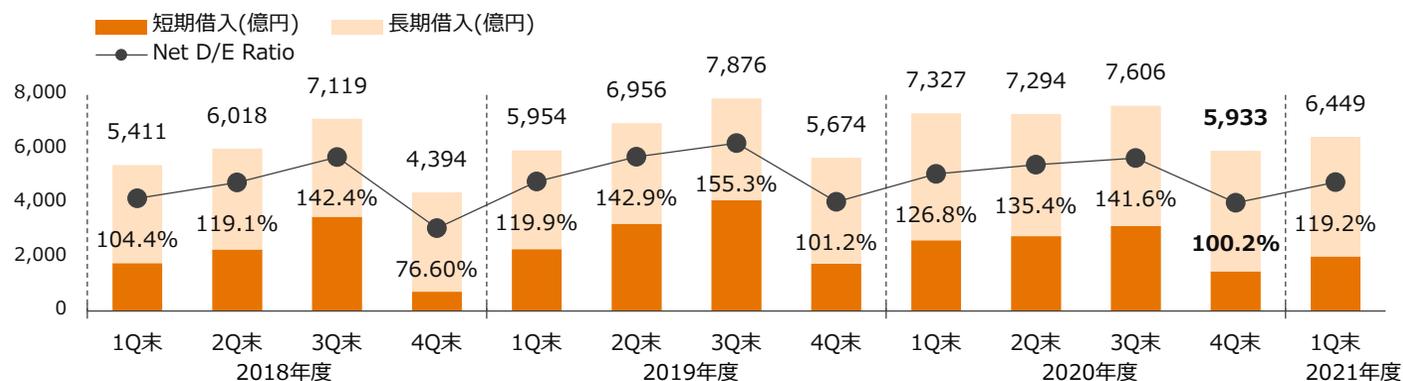
## 要因説明

- ① 主に航空宇宙事業やMC&Eで減少
- ② 前年度末比での借入増は平常の事業サイクル
- ③ 収益認識会計基準適用に伴う期首剰余金の減少等（約▲400億円）

## 補足情報

Cash Conversion Cycle  
の推移（単位：日）

	CCC
'17年度1Q末	121
'18年度1Q末	126
'19年度1Q末	139
'20年度1Q末	151
'21年度1Q末	136



(単位：億円)

	'20年度1Q	'21年度1Q	増減
税金等調整前当期純利益	▲ 141	146	+ 287
減価償却費	150	148	▲ 1
運転資本構成項目の増減額	▲ 529	▲ 397	+ 131
うち 売上債権の増減額(▲は増加)	463	193	▲ 270
棚卸資産の増減額(▲は増加)	▲ 263	▲ 137	+ 125
仕入債務の増減額(▲は減少)	▲ 628	▲ 403	+ 224
前渡金の増減額(▲は増加)	▲ 60	▲ 54	+ 5
契約負債*の増減額(▲は減少)	▲ 40	5	+ 46
その他	▲ 491	▲ 326	+ 164
営業活動によるキャッシュ・フロー	▲ 1,011	▲ 428	① + 582
有形・無形固定資産の取得による支出	▲ 133	▲ 144	▲ 11
有形・無形固定資産の売却による収入	② 136	23	▲ 113
その他	22	▲ 3	▲ 26
投資活動によるキャッシュ・フロー	26	▲ 124	▲ 150
フリー・キャッシュ・フロー	▲ 984	▲ 552	+ 431
借入金および社債の純増減額(▲は減少)	1,556	504	③ ▲ 1,051
配当金の支払額(非支配株主への支払を除く)	▲ 0	▲ 0	+ 0
セールス&リースバックによる収入	② 100	-	▲ 100
その他	▲ 18	▲ 6	+ 11
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,638	498	▲ 1,140

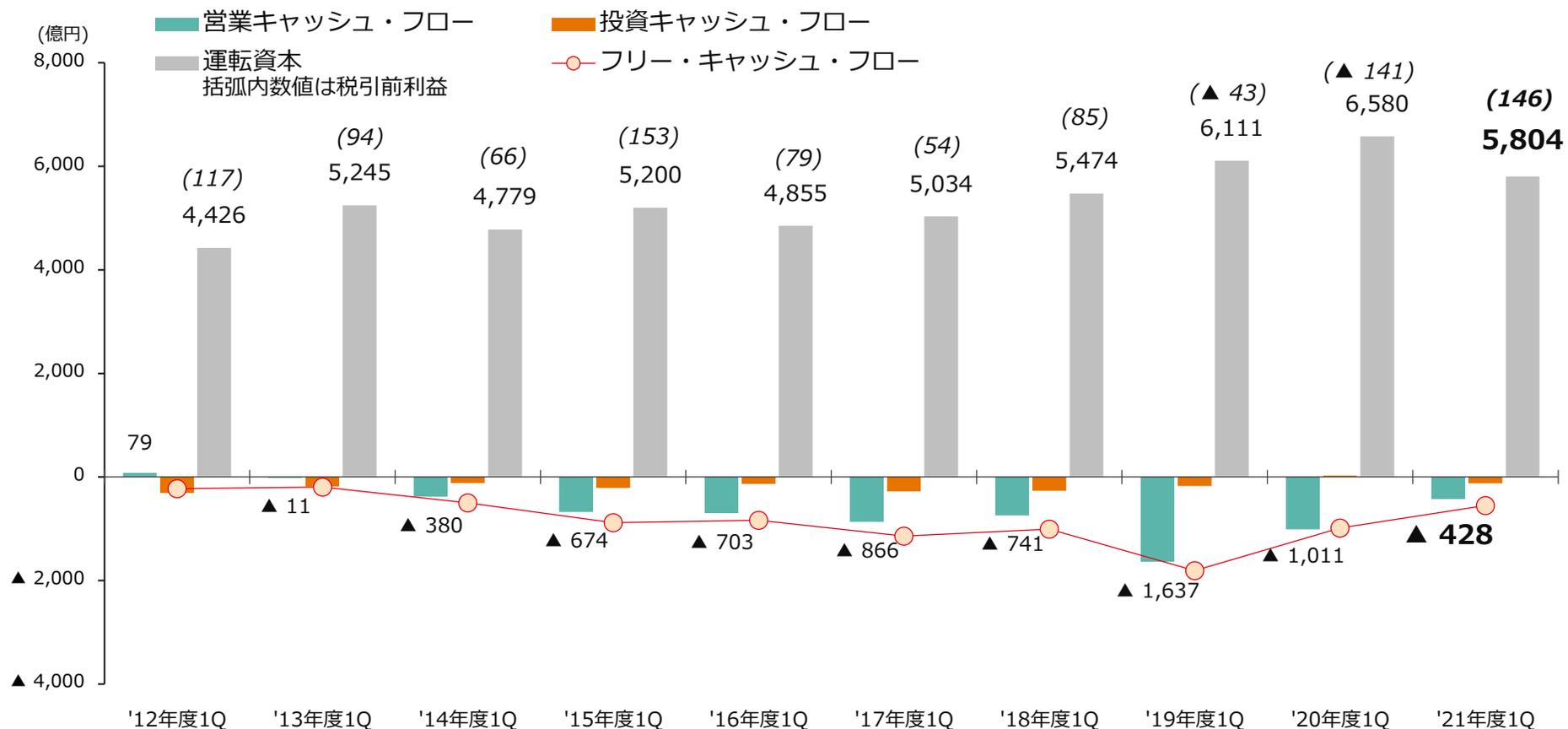
※ 旧科目名は前受金

## 要因説明

- ① '20年度1Q：  
コロナ影響が大きく、  
税引前利益をはじめ  
運転資本構成項目等で  
大きく資金流出
- '21年度1Q：  
業績の回復に加え、  
運転資本構成項目では  
プラント事業やMC&E  
で債権回収が進捗
- ② 寮・社宅の売却
- ③ '20年度1Q：  
FCF赤字の補填および  
コロナ禍における不測  
の事態に備えた借入増
- '21年度1Q：  
1Qにおける増加額とし  
ては低水準

# 1 2021年度1Q決算実績 - キャッシュ・フロー計算書

- ✓ ジェットエンジン事業を中心に運転資本が重く、営業CFのマイナスが継続
- ✓ 足元では好調な量産系事業の貢献により営業CFは改善傾向



## 2 2021年度業績予想 - サマリー

- ☑ MC&Eの進捗および為替状況を踏まえ、営業利益を上方修正
- ☑ 営業外損益および税金費用の悪化により、純利益の修正は小幅に留まる

(単位：億円)

	'20年度 実績	'21年度予想および進捗状況					
		従来予想	修正予想	前期比	従来予想比	1Q実績	2-4Q予想
受注高	14,024	14,800	<b>15,100</b>	+ 1,076	+ 300	<b>3,042</b>	<b>12,058</b>
売上高	14,884	15,000	<b>15,300</b>	+ 416	+ 300	<b>3,556</b>	<b>11,744</b>
営業損益	▲ 53	300	<b>400</b>	+ 453	+ 100	<b>151</b>	<b>249</b>
	[利益率] [▲ 0.3%]	[2.0%]	[2.6%]	[+ 2.9pt]	[+ 0.6pt]	[4.2%]	[2.1%]
経常損益	▲ 28	200	<b>280</b>	+ 308	+ 80	<b>131</b>	<b>149</b>
	[利益率] [▲ 0.1%]	[1.3%]	[1.8%]	[+ 2.0pt]	[+ 0.4pt]	[3.6%]	[1.2%]
親会社株主に帰属する 当期純損益	▲ 193	170	<b>190</b>	+ 383	+ 20	<b>98</b>	<b>92</b>
	[利益率] [▲ 1.2%]	[1.1%]	[1.2%]	[+ 2.5pt]	[+ 0.1pt]	[2.7%]	[0.7%]
税前ROIC	▲ 1.0%	2.5%	<b>3.3%</b>	+ 4.3pt	+ 0.8pt	-	-
売上加重平均レート(USD/JPY)	105.29	106.00	-	-	-	<b>110.71</b>	<b>109.00</b>
損益影響外貨量(億USD) <sup>※</sup>	16.1	16.1	<b>16.4</b>	0.3	+ 0.3	<b>4.2</b>	<b>12.2</b>

※ 川崎重工業単体のドル建売上からドル建仕入を控除して算出（損失引当済み案件のドル建売上を含む）した外貨量であり、ドル1円の変動による営業利益への概算影響額。  
当該数値のセグメント別内訳はP.41を参照

## 2 2021年度業績予想 - セグメント別

- ☑ 航空宇宙システムは前期比で大きく改善するものの、引き続き厳しい状況
- ☑ MC&Eは二輪車・四輪車の旺盛な需要を取り込み、大きく見通しを引き上げ

(単位：億円)

	受注高				売上高				営業損益			
	'20年度 実績	'21年度予想			'20年度 実績	'21年度予想			'20年度 実績	'21年度予想		
		従来予想	修正予想	修正額		従来予想	修正予想	修正額		従来予想	修正予想	修正額
航空宇宙システム	3,295	3,100	<b>3,100</b>	-	3,777	<b>3,400</b>	<b>3,400</b>	-	▲ 316	<b>▲ 80</b>	<b>▲ 60</b>	+ 20
車両	770	700	<b>700</b>	-	1,332	<b>1,500</b>	<b>1,500</b>	-	▲ 45	<b>30</b>	<b>30</b>	-
工業用ソリューション&マリン	3,171	4,000	<b>4,000</b>	-	3,195	<b>3,200</b>	<b>3,200</b>	-	103	<b>35</b>	<b>25</b>	▲ 10
精密機械・ホット	2,594	2,600	<b>2,600</b>	-	2,408	<b>2,500</b>	<b>2,500</b>	-	140	<b>160</b>	<b>170</b>	+ 10
モーターサイクル&エンジン	3,366	3,800	<b>4,100</b>	+ 300	3,366	<b>3,800</b>	<b>4,100</b>	+ 300	117	<b>170</b>	<b>250</b>	+ 80
その他	825	600	<b>600</b>	-	804	<b>600</b>	<b>600</b>	-	4	<b>20</b>	<b>20</b>	-
調整額 <sup>※2</sup>	-	-	-	-	-	-	-	-	▲ 57	<b>▲ 35</b>	<b>▲ 35</b>	-
合計	14,024	14,800	<b>15,100</b>	+ 300	14,884	<b>15,000</b>	<b>15,300</b>	+ 300	▲ 53	<b>300</b>	<b>400</b>	+ 100

※1 「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号2020年3月31日）の適用により、従来の方法に比べて、航空宇宙システムセグメントの売上高で約▲730億円、営業利益で約▲100億円、その他セグメントの売上高で約▲300億円の影響を見込んでいます

※2 「調整額」には、本社部門で発生する費用で社内管理上各部門への配賦を行わない費用等を含みます

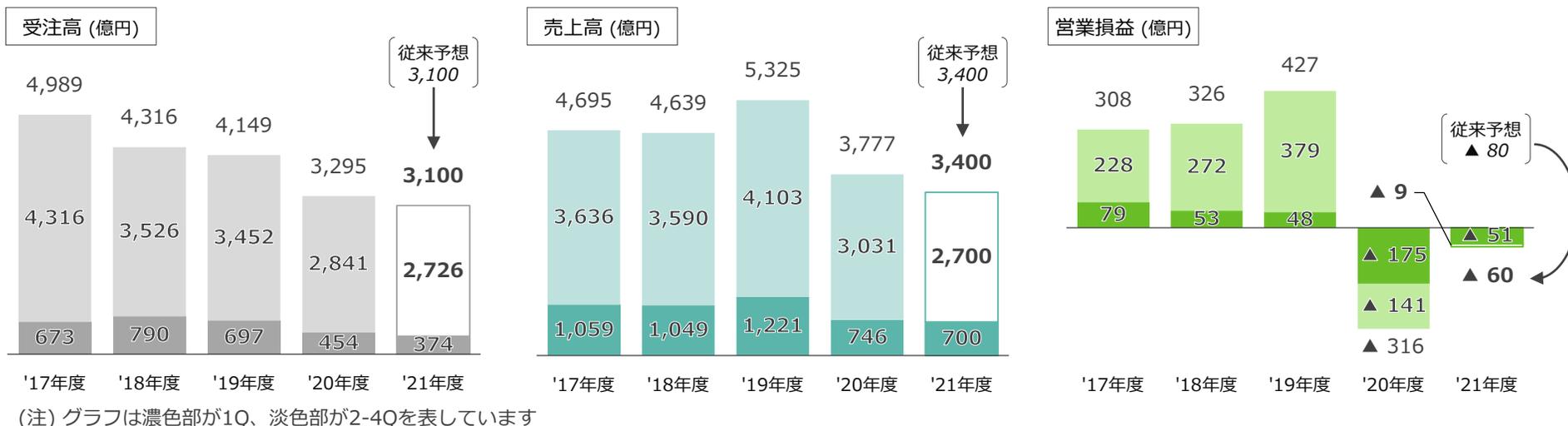
# 3 セグメント別詳細情報 - 航空宇宙システム

## 2021年度1Q実績（前年同期比）

- 受注** ↓ ヘリコプターが増加したものの、収益認識会計基準の適用による民間機向け航空エンジンの減少等により減少
- 売上** ↓ ボーイング向けは増加したものの、収益認識会計基準の適用による民間機向け航空エンジンの減少等により減収
- 営業利益** ↑ ボーイング向けの増収や民間機向け航空エンジンの収益性改善等により改善

## 2021年度予想（従来予想比）

- 受注・売上** → 大きな変動はなく、見通しを据え置き
- 営業利益** ↑ 主として為替前提の変更により、見通しを引き上げ



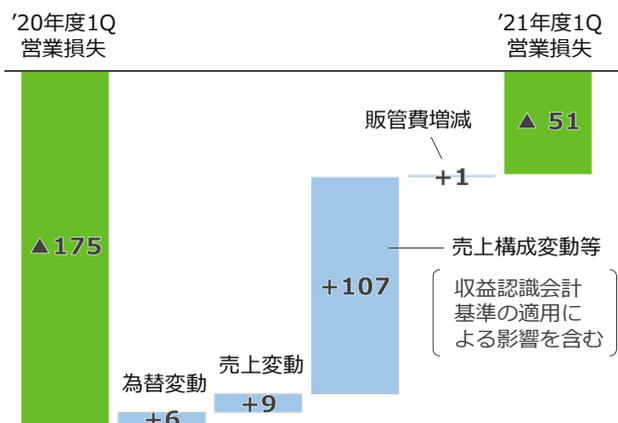
# 3 セグメント別詳細情報 - 航空宇宙システム

(単位：億円)

	'20年度	'21年度		'20年度	'21年度予想				
	1Q実績	1Q実績	前年同期比	通期	従来予想	修正予想	前期比	従来予想比	2-4Q予想
受注高	454	<b>374</b>	▲ 79	3,295	3,100	<b>3,100</b>	▲ 195	-	<b>2,726</b>
うち 航空宇宙	240	<b>275</b>	+ 34	2,362	2,400	<b>2,500</b>	+ 138	+ 100	<b>2,225</b>
航空エンジン	213	<b>98</b>	▲ 114	933	700	<b>600</b>	▲ 333	▲ 100	<b>502</b>
売上高	746	* <b>700</b>	▲ 45	3,777	3,400	* <b>3,400</b>	▲ 377	-	<b>2,700</b>
うち 航空宇宙	507	<b>564</b>	+ 57	2,625	2,650	<b>2,650</b>	+ 25	-	<b>2,086</b>
航空エンジン	239	<b>136</b>	▲ 102	1,151	750	<b>750</b>	▲ 401	-	<b>614</b>
営業損益	▲ 175	* <b>▲ 51</b>	+ 123	▲ 316	▲ 80	* <b>▲ 60</b>	+ 256	+ 20	<b>▲ 9</b>
	[利益率] [▲ 23.4%]	[▲ 7.3%]	[+ 16.1pt]	[▲ 8.3%]	[▲ 2.3%]	[▲ 1.7%]	[+ 6.6pt]	[+ 0.6pt]	[▲ 0.3%]

※ 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号2020年3月31日)の適用により、従来の方法に比べて、1Qでは売上高で約▲123億円、営業利益で約+10億円の影響が生じています。また、通期では売上高で約▲730億円、営業利益で約▲100億円の影響を見込んでいます

## 営業損益増減要因 (億円)



## 補足情報

ボーイング向け航空機分担製造品の売上機数 (単位：機)

	'20年度		'21年度	1Q比増減
	1Q	通期	1Q	
	767	4 30	8	+ 4
	777	3 24	6	+ 3
	777X	1 9	1	-
	787	18 77	16	▲ 2

主要航空エンジン分担製造品の売上台数 (単位：台)

	'20年度		'21年度	1Q比増減
	1Q	通期	1Q	
V2500	-	5	2	+ 2
PW1100G	79	360	107	+ 28

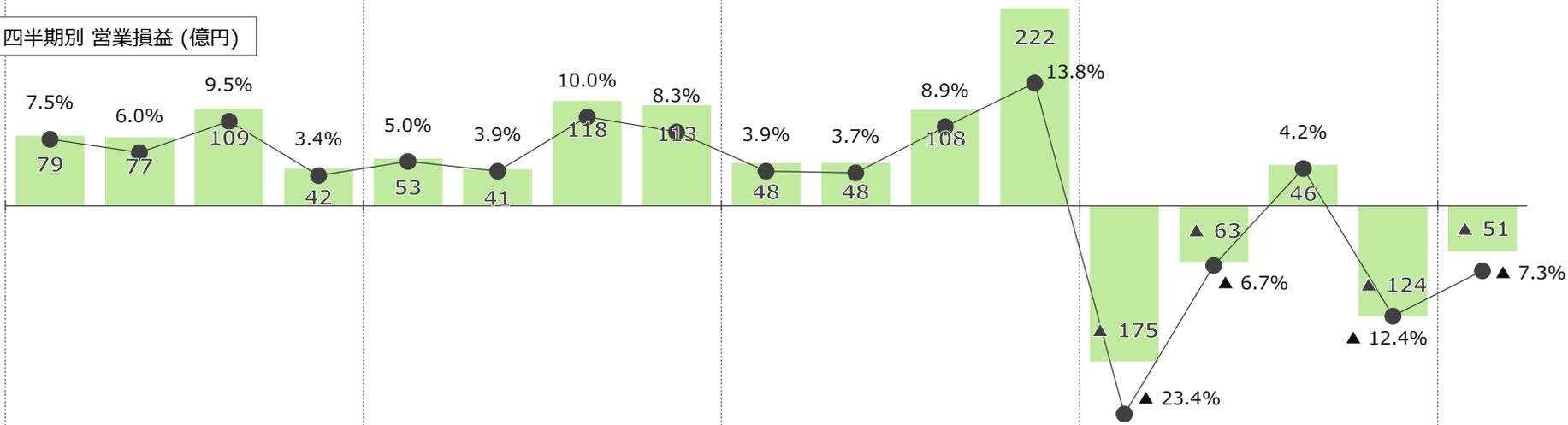
(注) Rolls-Royce向けエンジンは非公表

# 3 セグメント別詳細情報 - 航空宇宙システム

四半期別 売上高 (億円)



四半期別 営業損益 (億円)



# 3 セグメント別詳細情報 - 航空宇宙システム

## 事業環境・受注動向

- 民間向け
  - コロナの影響が著しく、世界の旅客需要低迷に伴い機体・エンジンともに需要が低下
  - 短距離路線（国内線）は一部で回復が見られるものの、長距離路線（国際線）を中心に全体的な需要回復は足踏み
  - 市場環境がコロナ以前の状況に回復するには相当程度の時間を要する
  - ただし、エンジンは機体と比較して早期の回復が期待できる
- 防衛省向け
  - 厳しい防衛予算の中でも概ね安定した需要が存在
  - 中長期的にも安定した受注が見込める

## 重点施策と具体的な取り組み

### ✓ 基盤事業での安定した収益確保

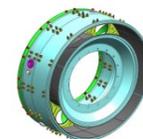
- ボーイング既存機および民間航空機用エンジンの収益確保のためのコストダウン推進
- 防衛航空機の既受注開発案件・量産契約は納入計画通りに進捗



P-1固定翼哨戒機  
'21年度は5機の納入を予定

### ✓ 市場変化を踏まえた技術戦略の見直し

- 将来ビジョンに応じた研究開発の再構築
- 脱炭素社会に向けた環境技術開発を立上げ

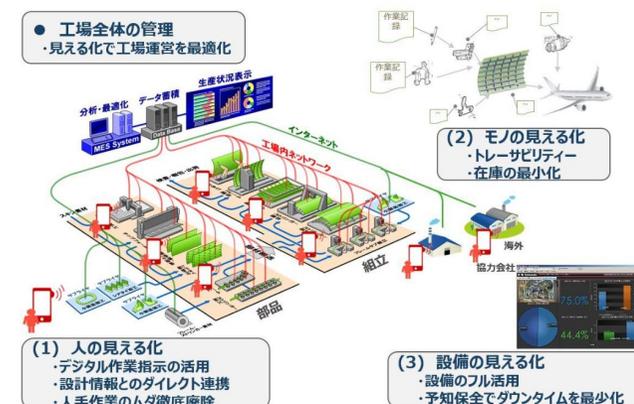


水素燃焼器  
(脱炭素技術の開発)

### ✓ 財務基盤の強化

- 固定費構造の見直し
- 生産革新活動による棚卸資産圧縮の促進

生産革新活動の一例：  
Smart-Kプロジェクト



# 3 セグメント別詳細情報 - 車両

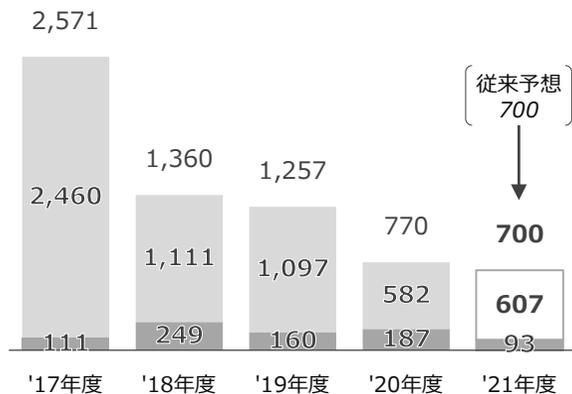
## 2021年度1Q実績（前年同期比）

- 受注**  前年同期に新幹線車両の受注があったため減少
- 売上**  米国向け車両の増加はあったものの、その他地域向け車両が減少したことにより減収
- 営業利益**  減収はあったものの、コロナ影響の縮小等による海外案件の採算改善により改善

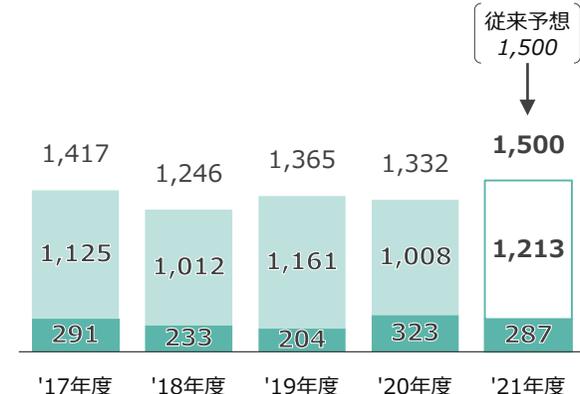
## 2021年度予想（従来予想比）

- 受注・売上・営業利益**  大きな変動はなく、見通しを据え置き

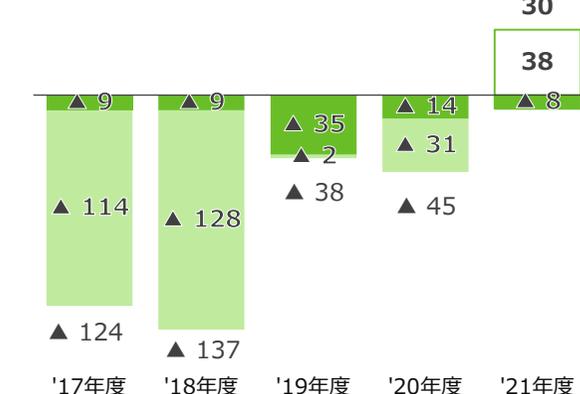
受注高 (億円)



売上高 (億円)



営業損益 (億円)



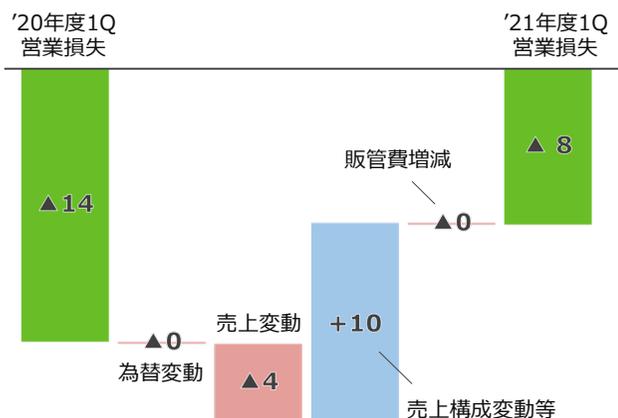
(注) グラフは濃色部が1Q、淡色部が2-4Qを表しています

# 3 セグメント別詳細情報 - 車両

(単位：億円)

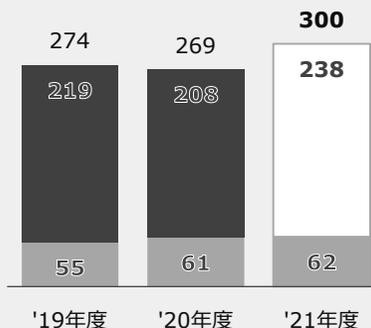
	'20年度	'21年度		'20年度	'21年度予想				
	1Q実績	1Q実績	前年同期比	通期	従来予想	修正予想	前期比	従来予想比	2-4Q予想
受注高	187	<b>93</b>	▲ 94	770	700	<b>700</b>	▲ 70	-	<b>607</b>
うち 国内・アジア	132	<b>61</b>	▲ 71	662	670	<b>660</b>	▲ 2	▲ 10	<b>599</b>
北米	55	<b>32</b>	▲ 23	108	30	<b>40</b>	▲ 68	+ 10	<b>8</b>
売上高	323	<b>287</b>	▲ 35	1,332	1,500	<b>1,500</b>	+ 168	-	<b>1,213</b>
うち 国内・アジア	263	<b>185</b>	▲ 77	1,075	990	<b>1,000</b>	▲ 75	+ 10	<b>815</b>
北米	60	<b>102</b>	+ 41	256	510	<b>500</b>	+ 244	▲ 10	<b>398</b>
営業損益	▲ 14	<b>▲ 8</b>	+ 6	▲ 45	30	<b>30</b>	+ 75	-	<b>38</b>
	[利益率] [▲ 4.5%]	[▲ 2.9%]	[+ 1.5pt]	[▲ 3.4%]	[2.0%]	[2.0%]	[+ 5.4pt]	[-]	[3.1%]

営業損益増減要因 (億円)



補足情報

部品・改造・アフター関連売上(単位：億円)  
(上段：2-3Q 下段：1Q)

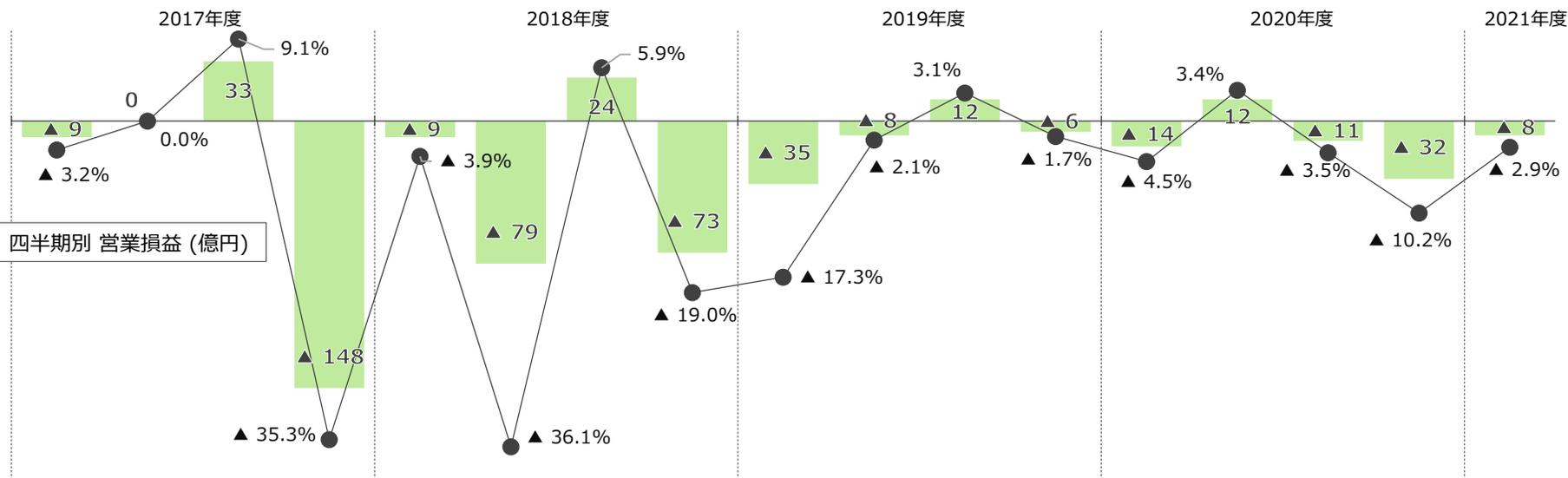
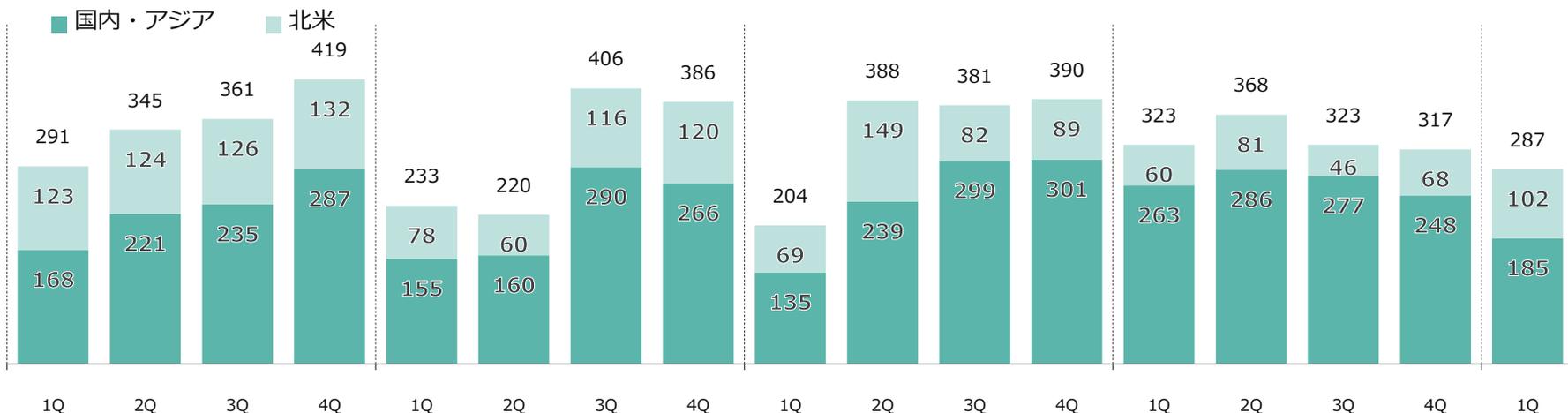


米国ロングアイランド鉄道向け  
M-9プロジェクトの進捗状況 ('21年6月末)

- 全202両のうち、96両が引渡し済み
- 北米生産拠点のKMMでは最終号機の生産に着手しており、最終号機の引き渡しは2022年度1Qを予定

# 3 セグメント別詳細情報 - 車両

四半期別 売上高 (億円)



四半期別 営業損益 (億円)

# 3 セグメント別詳細情報 - 車両

## 事業環境・受注動向

- 新型コロナウイルスの影響
  - 国内では鉄道関連投資計画の見直しが一部の事業者から出ている
  - 海外では新規案件の入札の延期・中止等の影響が出る可能性がある
- 中長期展望
  - 人口集中による大都市の混雑緩和や環境対策のための都市交通整備、アジア諸国の経済発展に伴う鉄道インフラニーズなど、今後も世界的に比較的安定した成長が見込まれる

## 重点施策と具体的な取り組み

### ✓ 海外案件の納入スケジュール遵守

- 主要案件のマイルストーン

ダッカ初編成納入 2021年度1Q

初編成・第2編成は現地機能試験を実施中  
第3・4編成は現地搬入中

R211プロト初編成納入 2021年度1Q

R211Aパイロット車2編成(10両)はNYに到着し型式試験を実施中  
KMMでのR211A量産車生産は2021年度3Qから開始

M-9最終車両引渡し 2022年度1Q

2021年度1QまでにBase契約(92両)は完工しOption車両の生産中

- 新たに設立した全社北米事業タスクフォースを通じて、北米工場の工程整流化・生産性・品質向上のため、本社部門・他カンパニーから人財を投入

### ✓ 顧客に信頼される品質レベルの達成

- 仕損じ、手直し費用の削減
- KPS (Kawasaki Production System)の更なる推進、北米工場への展開

### ✓ 部品・サービスの拡販、保守分野の事業拡大

- 北米向け軌道遠隔監視装置を2021年度1Qにサービス開始



ダッカ都市交通会社  
(Dhaka Mass Transit  
Company Limited) 向け  
都市高速鉄道車両

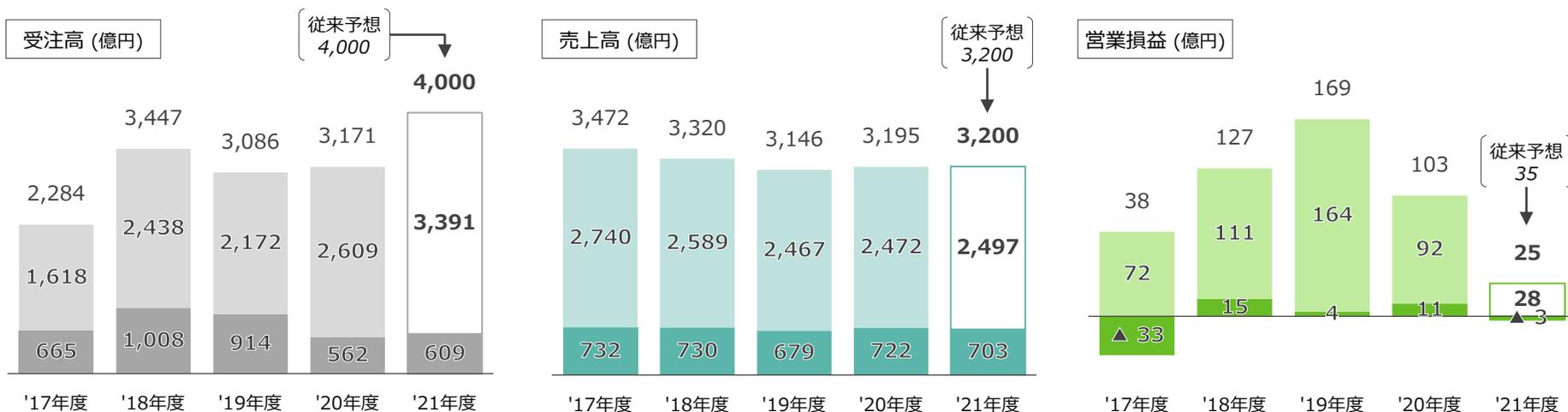
# 3 セグメント別詳細情報 - エネルギーソリューション&マリン

## 2021年度1Q実績（前年同期比）

- 受注**  国内向けごみ処理施設改良工事等の大口案件の受注により増加
- 売上**  エネルギー事業の増収はあったものの、船舶海洋事業における防衛省向け潜水艦の修繕工事の減少等により、全体としては減収
- 営業利益**  売上構成変動等により悪化

## 2021年度予想（従来予想比）

- 受注・売上**  大きな変動はなく、見通しを据え置き
- 営業利益**  原材料価格の上昇により見通しを引き下げ



(注) グラフは濃色部が1Q、淡色部が2-4Qを表しています。なお、過年度実績は変更後の報告セグメントに組替えて表示しています

# 3

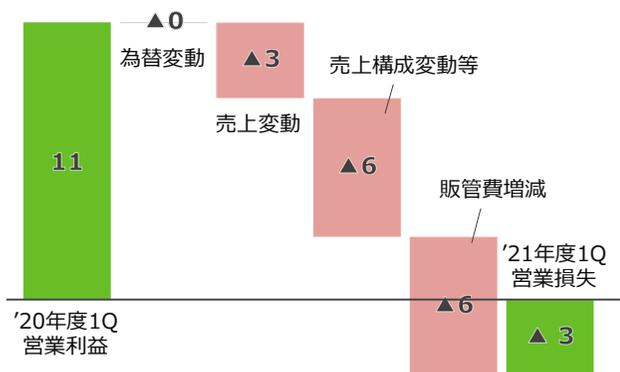
## セグメント別詳細情報 - エネルギーソリューション&マリン

(単位：億円)

	'20年度	'21年度		'20年度	'21年度予想				
	1Q実績	1Q実績	前年同期比	通期	従来予想	修正予想	前期比	従来予想比	2-4Q予想
受注高	562	<b>609</b>	+ 46	3,171	4,000	<b>4,000</b>	+ 829	-	<b>3,391</b>
うち I社 <sup>1</sup> ・環境プラント	462	<b>555</b>	+ 93	2,190	3,350	<b>3,350</b>	+ 1,160	-	<b>2,795</b>
船舶海洋	99	<b>53</b>	▲ 46	981	650	<b>650</b>	▲ 331	-	<b>597</b>
売上高	722	<b>703</b>	▲ 19	3,195	3,200	<b>3,200</b>	+ 5	-	<b>2,497</b>
うち I社 <sup>1</sup> ・環境プラント	500	<b>510</b>	+ 9	2,401	2,500	<b>2,500</b>	+ 99	-	<b>1,990</b>
船舶海洋	221	<b>193</b>	▲ 28	794	700	<b>700</b>	▲ 94	-	<b>507</b>
営業損益	11	<b>▲ 3</b>	▲ 15	103	35	<b>25</b>	▲ 78	▲ 10	<b>28</b>
	[利益率] [1.5%]	[▲ 0.5%]	[▲ 2.0pt]	[3.2%]	[1.0%]	[0.7%]	[▲ 2.5pt]	[▲ 0.3pt]	[1.1%]

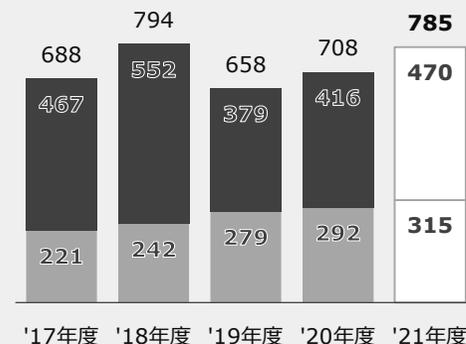
(注) 過年度実績は変更後の報告セグメントに組替えて表示しています

営業利益増減要因 (億円)

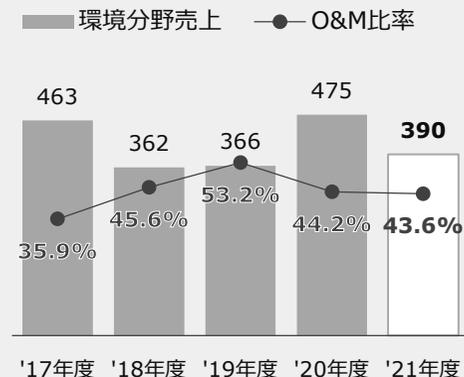


補足情報

エネルギー事業における主要製品の売上 (億円)  
(上段：機器関連 下段：アフターサービス)



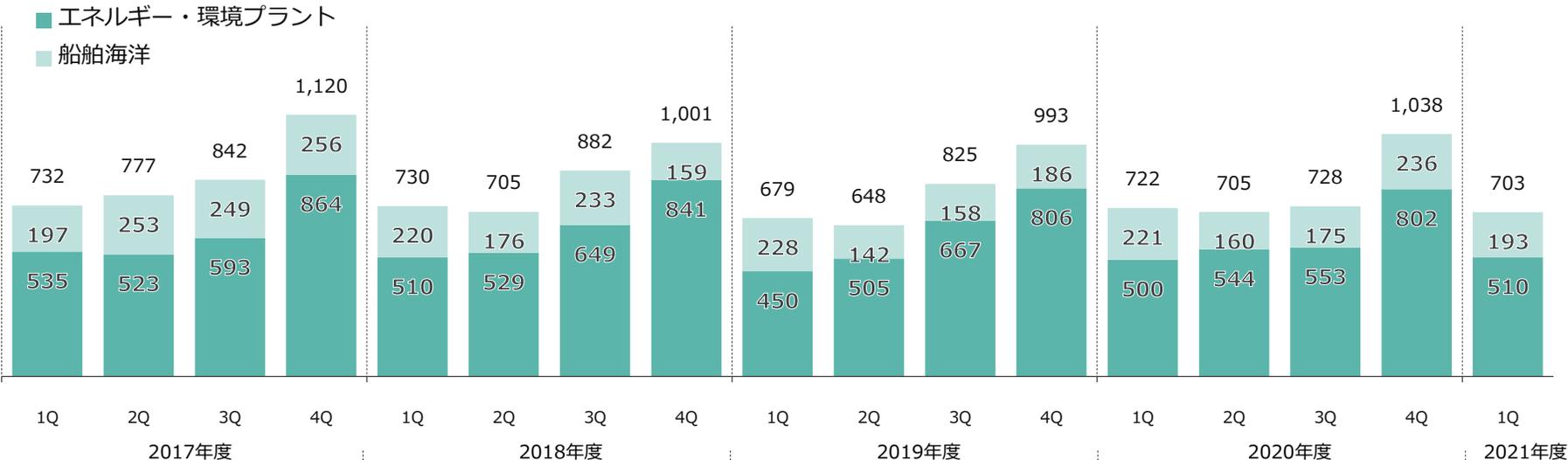
プラント事業における環境分野の売上 (億円)



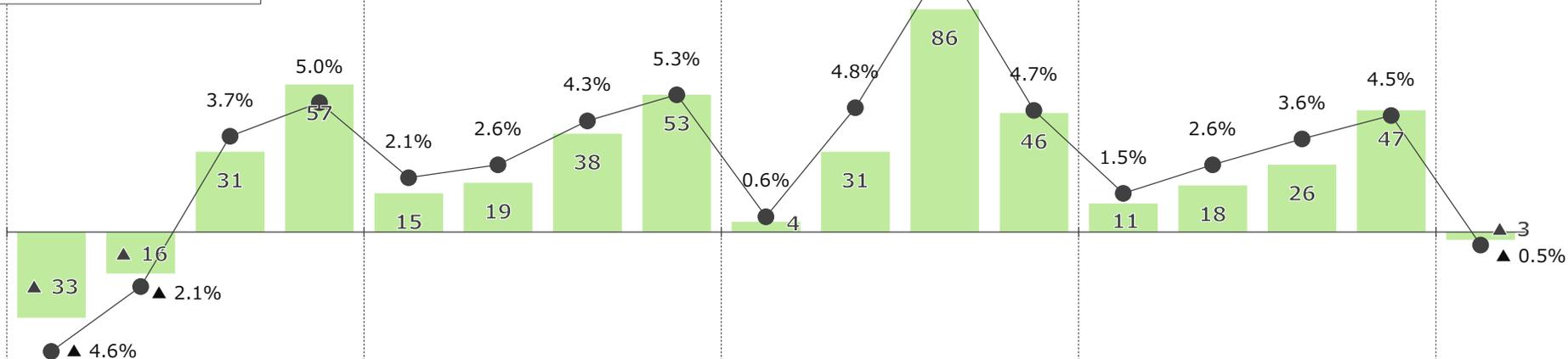
# 3

## セグメント別詳細情報 - エネルギーソリューション&マリン

四半期別 売上高 (億円)



四半期別 営業損益 (億円)



(注) 過年度実績は変更後の報告セグメントに組替えて表示しています

# 3 セグメント別詳細情報 - エネルギーソリューション&マリン

## 事業環境・受注動向

### ● エネルギー・環境プラント

国内	海外(新興国)
分散型電源需要が根強く、 ごみ焼却設備の老朽化更新 需要が継続	分散型電源等のエネルギー インフラ整備需要が根強い

### ● 船舶海洋

一般商船	艦艇・特殊船
- アンモニア需要増に対する 期待の高まりを背景とし たLPG/アンモニア兼用 運搬船の商談が増加	- 潜水艦は安定的な受注

### ● セグメント全体

コロナ影響・リスク	カーボンニュートラル
- 需要は回復基調 - 急速な経済正常化の動き に連れて、原材料価格や 輸送運賃が高騰	当社が強みとする水素製品を はじめ、脱炭素ソリューション に関する問い合わせや協力 要請が増加

## 重点施策と具体的な取り組み

### ✓ 受注回復に向け営業活動を強化

- コロナ影響で一時的に凍結されていた案件や、  
アフターコロナを見越した新規案件の着実な取り  
込みを目指す

#### 事例

潜水船と産業用ロボットの技術シナジーに  
よる自律型無人潜水機「SPICE」の開発

英国/ MODUS SUBSEA SERVICES LIMITEDより  
自律型無人潜水機「SPICE」を受注

- 世界初の海底パイプライン検査用  
ロボットアームを搭載、自律制御  
により検査効率の向上と作業員の  
負荷低減に寄与
- 北海をはじめ老朽化が進む海底  
パイプラインの近接検査向けに  
普及を目指す



「SPICE」のイメージ画像

### ✓ 脱炭素分野での主導的ポジションの確立

- グループ会社「カワサキグリーンエナジー」が  
4月1日より営業開始  
当社が建設した廃棄物処理プラントなどで発電される  
CO<sub>2</sub>フリー電力を中心に販売  
将来的には水素燃料由来電力も視野に入れ水素エネル  
ギー普及に向けた取り組みを支援

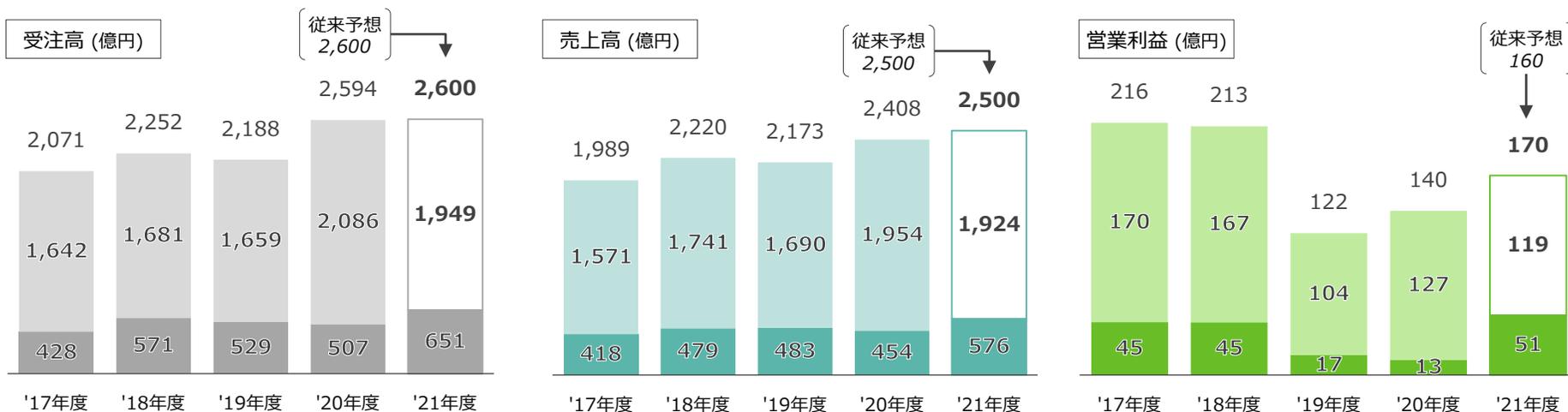
# 3 セグメント別詳細情報 - 精密機械・ロボット

## 2021年度1Q実績（前年同期比）

- 受注  建設機械市場向け油圧機器や半導体向けをはじめとする各種ロボットの増加により増加
- 売上  同上の理由により増収
- 営業利益  増収により増益

## 2021年度予想（従来予想比）

- 受注・売上  大きな変動はなく、見通しを据え置き
- 営業利益  ロボット事業の採算性改善により見通しを引き上げ



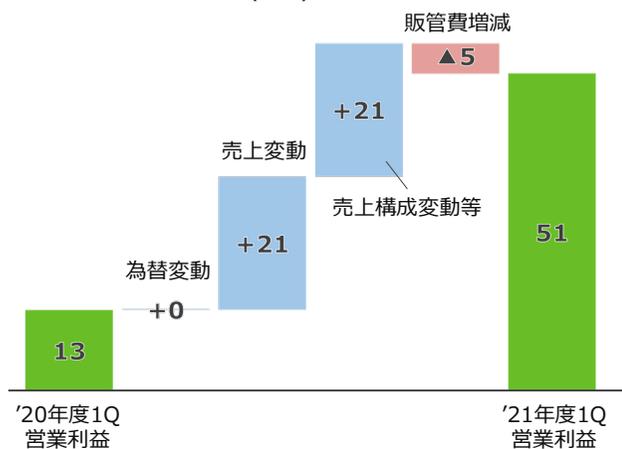
(注) グラフは濃色部が1Q、淡色部が2-4Qを表しています

# 3 セグメント別詳細情報 - 精密機械・ロボット

(単位：億円)

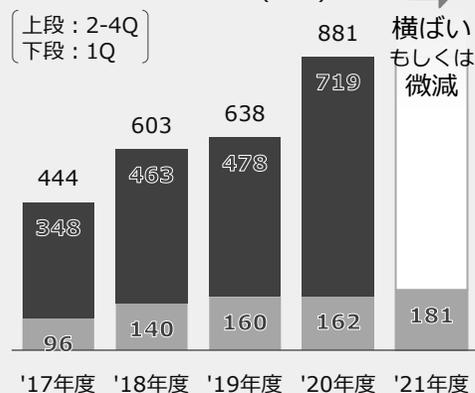
	'20年度	'21年度		'20年度	'21年度予想				
	1Q実績	1Q実績	前年同期比	通期	従来予想	修正予想	前期比	従来予想比	2-4Q予想
受注高	507	<b>651</b>	+ 144	2,594	2,600	<b>2,600</b>	+ 6	-	<b>1,949</b>
うち 油圧機器	359	<b>411</b>	+ 51	1,726	1,650	<b>1,650</b>	▲ 76	-	<b>1,239</b>
ロボット	147	<b>240</b>	+ 92	867	950	<b>950</b>	+ 83	-	<b>710</b>
売上高	454	<b>576</b>	+ 122	2,408	2,500	<b>2,500</b>	+ 92	-	<b>1,924</b>
うち 油圧機器	340	<b>405</b>	+ 64	1,655	1,600	<b>1,600</b>	▲ 55	-	<b>1,195</b>
ロボット	113	<b>170</b>	+ 57	752	900	<b>900</b>	+ 148	-	<b>730</b>
営業利益	13	<b>51</b>	+ 37	140	160	<b>170</b>	+ 30	+ 10	<b>119</b>
	[利益率] [2.9%]	[8.8%]	[+ 5.9pt]	[5.8%]	[6.4%]	[6.8%]	[+ 0.9pt]	[+ 0.4pt]	[6.1%]

営業利益増減要因 (億円)



補足情報

中国向け油圧機器売上 (億円)



ロボット分野別売上※ (単位：億円)

製品	'20年度	'21年度	増減
		(予)	
車体組立・塗装	43	62	+ 19
	368	350	▲ 18
半導体	54	76	+ 22
	238	250	+ 12
一般産機・その他	23	55	+22
	212	310	+98
合計	121	194	+73
	819	910	+91

※ 本表数値はセグメント間売上を含む

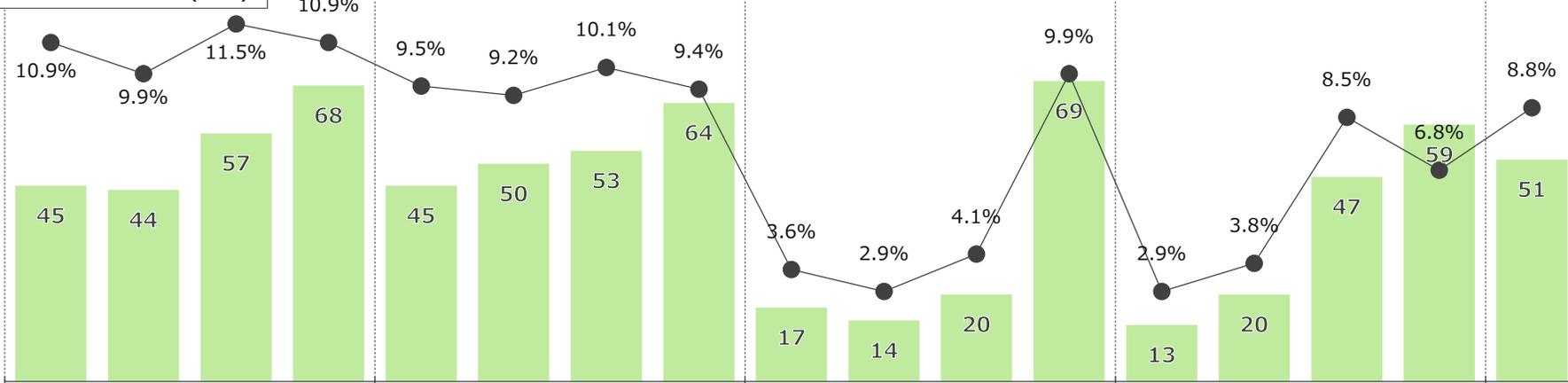
# 3

## セグメント別詳細情報 - 精密機械・ロボット

四半期別 売上高 (億円)



四半期別 営業利益 (億円)



# 3 セグメント別詳細情報 – 精密機械・ロボット

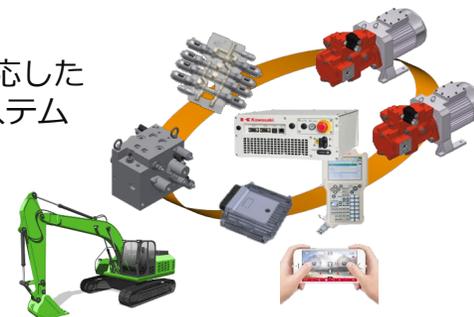
## 事業環境・受注動向

- 油圧機器
  - 中国建設機械市場  
当年度も高い水準の需要が継続しているものの、中国国内における油圧ショベルの販売状況等から在庫調整に向かい始めた建機メーカーもあり、注視が必要
  - 中国以外の地域における建設機械市場  
コロナ影響による減少から回復し好調に推移
  - 建設機械の分野は今後、環境規制を背景とした電動化と、建設現場の熟練労働者不足に起因する自動化・自律化が進む
- ロボット
  - 汎用ロボット  
コロナ影響からの回復の早い地域を中心に好調に推移
  - 半導体向けロボット  
半導体メーカーの設備投資の増加により好調に推移

## 重点施策と具体的な取り組み

### ✓ 建設機械の電動化・自動化に向けた技術開発の推進

- 電動化・自動化に対応した最新型油圧機器・システムの開発・供給により、顧客の将来建機の開発をサポート



### ✓ オープンイノベーションの推進

- 同業他社や異業種との協業により、市場の開拓と強みの補完による競争力強化（差別化）を図る
- スタートアップとのコラボにより開発スピードアップを図り、新商品の市場投入を早める
- アカデミア&政府との連携により、要素技術力を強化し、新製品の開発を加速

### ■ ← Kawasaki Robotics Collaboration

同業他社

アカデミア&政府

スタートアップ

異分野他社



## 2021年度1Q実績（前年同期比）

売上



北米向け二輪車、四輪車等オフロードモデルの増加や欧州向け及び東南アジア向け二輪車の増加により増収

営業利益



増収に加え、前年同期に比べ為替レートが円安で推移したことや販促費の削減等により増益

## 2021年度予想（従来予想比）

売上

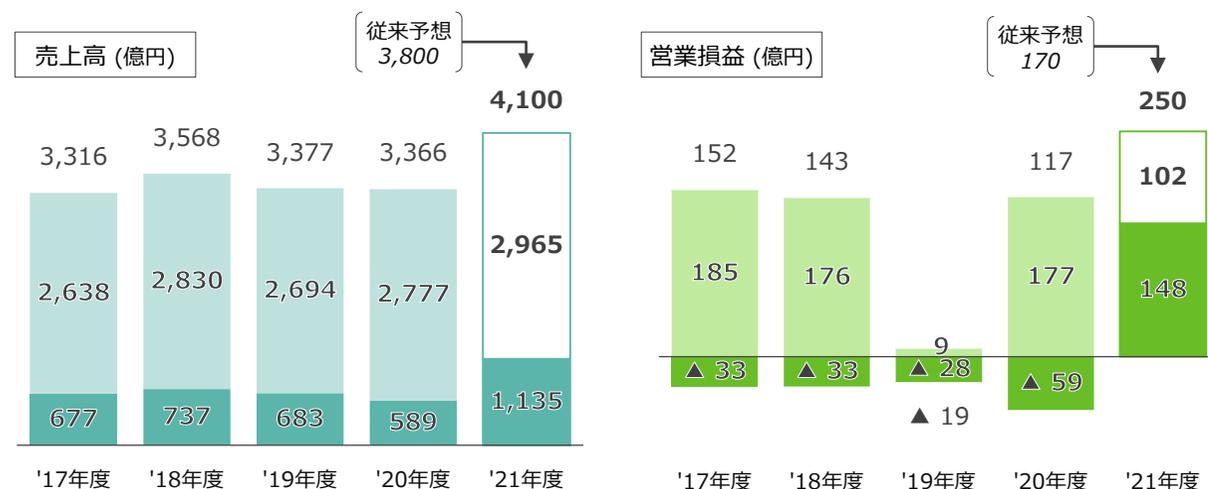


先進国における旺盛な需要を反映し、見通しを引き上げ

営業利益



物流コストの増加や原材料価格の上昇等を見込むものの、増収及び為替前提の変更により見通しを引き上げ



(注) グラフは濃色部が1Q、淡色部が2-4Qを表しています

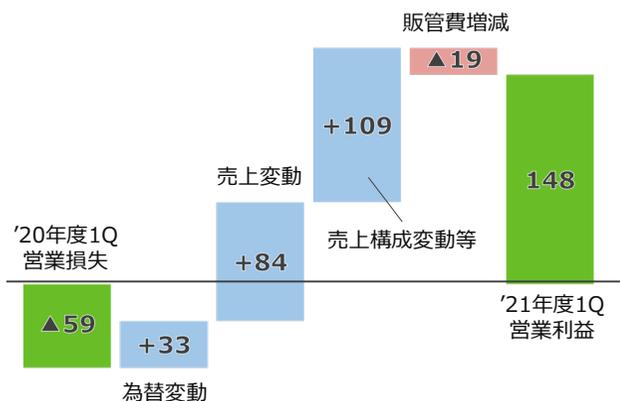
## 3

## セグメント別詳細情報 - モーターサイクル&amp;エンジン

(単位：億円)

	'20年度	'21年度		'20年度	'21年度予想				
	1Q実績	1Q実績	前年同期比	通期	従来予想	修正予想	前期比	従来予想比	2-4Q予想
売上高	589	<b>1,135</b>	+ 545	3,366	3,800	<b>4,100</b>	+ 734	+ 300	<b>2,965</b>
うち 先進国二輪車	247	<b>466</b>	+ 219	1,142	1,370	<b>1,480</b>	+ 338	+ 110	<b>1,014</b>
新興国二輪車	91	<b>219</b>	+ 128	674	820	<b>880</b>	+ 206	+ 60	<b>661</b>
四輪車・PWC	166	<b>260</b>	+ 94	1,014	1,080	<b>1,170</b>	+ 156	+ 90	<b>910</b>
汎用エンジン	85	<b>188</b>	+ 102	535	530	<b>570</b>	+ 35	+ 40	<b>382</b>
営業損益	<b>▲ 59</b>	<b>148</b>	+ 207	117	170	<b>250</b>	+ 133	+ 80	<b>102</b>
	[利益率] ▲ 10.0%	[13.0%]	[+ 23.1pt]	[3.4%]	[4.4%]	[6.0%]	[+ 2.5pt]	[+ 1.5pt]	[3.4%]

営業損益増減要因 (億円)



補足情報

二輪車国別販売台数 (卸売)

先進国 (単位：千台)

	'20年度1Q	'21年度1Q	増減
日本	2	6	+ 3
米国	6	20	+ 14
カナダ	1	2	+ 1
欧州	16	21	+ 5
豪州	2	3	+ 0
先進国計	29	55	+ 25

新興国 (単位：千台)

	'20年度1Q	'21年度1Q	増減
ブラジル	1	2	+ 0
タイ	1	2	+ 0
フィリピン	14	31	+ 17
インドネシア	1	11	+ 10
中国	3	9	+ 5
その他	2	4	+ 1
新興国計	25	61	+ 35

四輪車・PWCの販売台数 (卸売) は、'20年度1Qは13千台、'21年度1Qは20千台

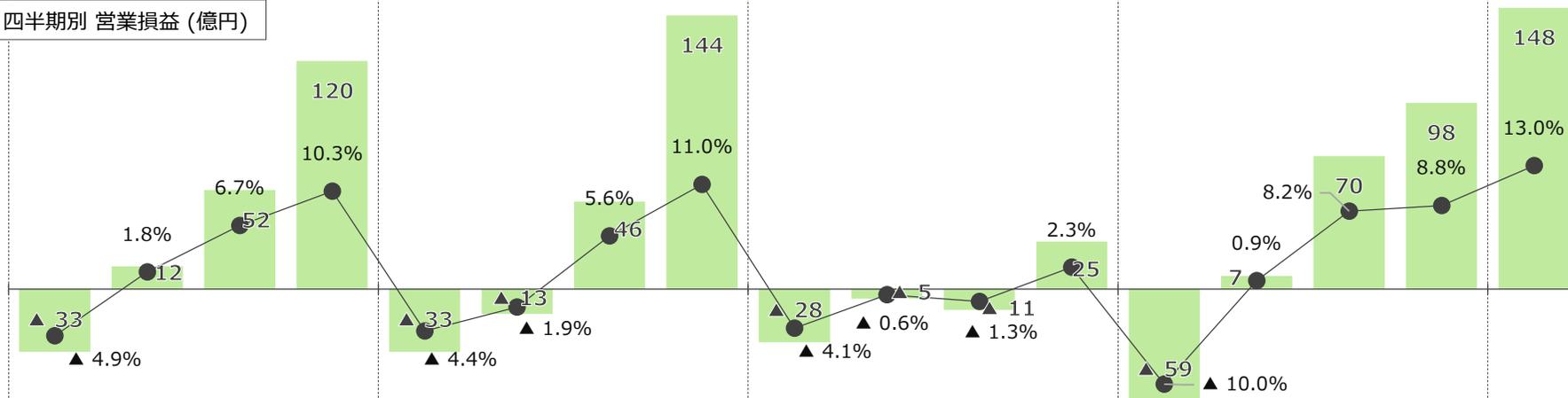
# 3

## セグメント別詳細情報 - モーターサイクル&エンジン

四半期別 売上高 (億円)



四半期別 営業損益 (億円)



## 事業環境・受注動向

- 米国
  - 前年度に引き続き、二輪車・四輪車等オフロードモデルの需要が旺盛
  - 今後も需要は堅調に推移すると見込む
- 欧州
  - コロナ影響が薄れ、市場は堅調に推移
- 東南アジア
  - 依然として先行きが不透明な状況が継続
- サプライチェーン
  - 半導体等の部品不足、物流の混乱等により、製品供給にも影響が及んでいる

## 重点施策と具体的な取り組み

- ✓ **市場要求に最大限に応える製品供給**
  - 生産計画達成に向け総力を挙げた活動
  - 半導体不足等を背景とするサプライヤーの供給不足や物流混乱により計画通り生産が出来ない場合、入手可能部品に応じて生産・販売計画の変更を迅速に実施
- ✓ **四輪ビジネスの拡大、電動化対応**
  - 四輪増産、脱炭素をにらんだ開発投資に焦点
  - 生産能力増強に向けた具体的検討に着手
  - 電動、ハイブリッドモデルの量産化に向けたFS※を加速
    - ※ Feasibility Study : 実行可能性調査
- ✓ **固定費コントロールの徹底（経営のスリム化）**
  - 2021年度以降も2020年度で低減した売上高固定費率水準を維持し追加削減も視野に入れる
  - ただし、研究開発は強化
- ✓ **FCFの確保**
  - 将来の投資に向けてFCFの安定確保を目指す



米国で販売好調なSxS  
TERYX KRX 1000



EV Project 参考出品車  
(2019年EICMAショー)

# 4 株主還元

## 配当政策

中長期的な  
連結配当性向の基準 **30%**

考慮

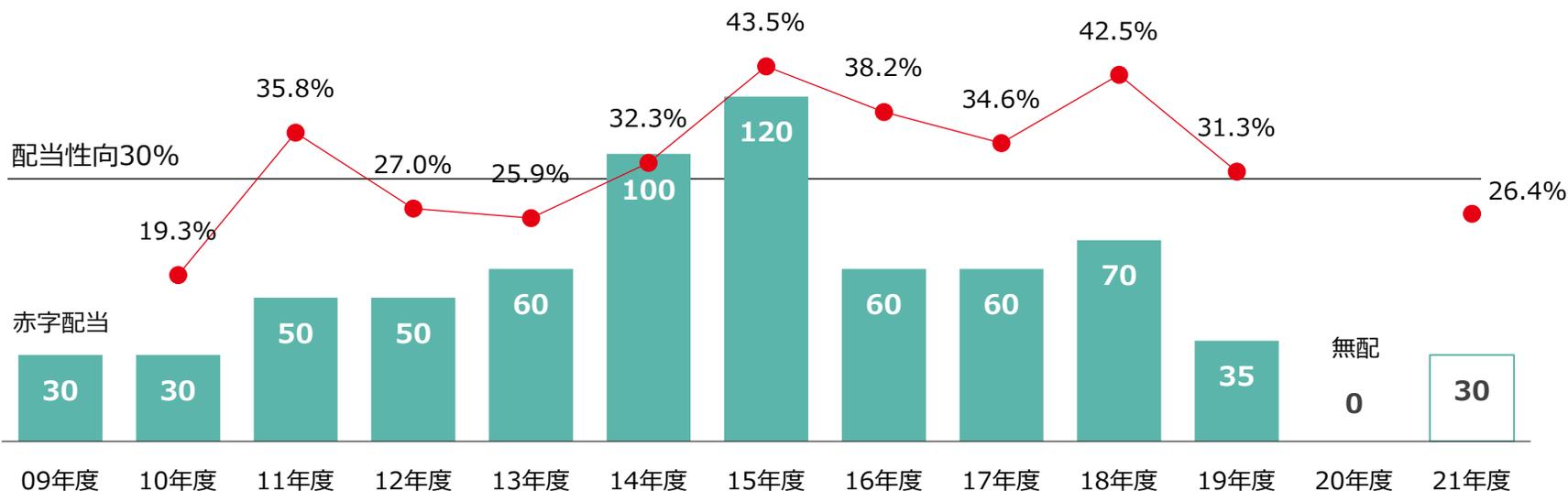
1 総合的に勘案

将来の業績見通し  
FCFやD/Eレシオ等の  
財務状況

2 安定的な配当

## 2021年度配当

- 営業利益は従来予想から100億円上方修正
  - 一方で、営業外損益および税金費用の悪化により、親会社株主に帰属する当期純利益は20億円の上方修正に留まる
  - サプライチェーンリスクの解消時期が不透明な状況
- ▶ 1株当たり**30円**（配当性向26.4%）の年間計画を据え置くが、**中間配当20円**を実施



## 4 プロジェクトトピックス

### ✓ 当社初のサステナビリティボンド（SDGs債）を発行

- 水素事業を中心的な用途とするサステナビリティボンドは**日本初**
- SDGs達成に貢献するグループビジョン2030の実現に向け、サステナビリティ経営の取り組みを加速
- 今後、サステナブル・ファイナンス※による資金調達を本格化させ、ステークホルダーとのエンゲージメントを強化

※ 環境・社会の持続可能性に貢献する企業や事業が行う資金調達の総称。

適格プロジェクト

- ① クリーン水素サプライチェーン構築に関する事業
- ② 自動PCR検査ロボットシステム普及に関する事業

発行額

100億円（発行年限：10年、利率：0.3%）



自動PCR検査ロボットシステム



世界初の液化水素運搬船向け「海上輸送用液化水素タンク」搭載工事

# 4 プロジェクトトピックス

## ✓ 自動PCR検査サービス事業の進捗

- 国内初の自動PCR検査ロボットシステムを藤田医科大学（愛知県）内に設置し、2021年3月より自動PCR検査サービス事業を開始
- 京都大学医学部附属病院およびシスメックス株式会社と大規模な自動PCR検査ロボットシステムの社会実装に向けた有用性評価（共同研究）を2021年4月より開始

**New** 2021年5月、関西国際空港の出発ターミナル入口(4F)に自動PCR検査ロボットシステムを設置  
国内初の空港での国際線出発旅客向け検査サービスの開始を目指す

**New** 明石工場及び神戸工場にて従業員向けの検査を開始(明石工場2021年4月～、神戸工場2021年6月～)  
今後、近隣地域を含めたスクリーニング検査サービス提供を目指す

### システム の特徴

- ① コンテナ(約12.2m)にシステムを収納した移動式
- ② 最大2,500検体/日の検査をロボットにより完全自動化
- ③ 検体投入後、約80分で迅速に検査



検体採取（当社内）



検体搬入



自動PCR検査ロボットシステム外観  
(関西国際空港)

# 4 プロジェクトトピックス

## ✓ 新しい働き方・暮らし方の提案 ソニーグループ株式会社との合併会社設立を発表

- 「働く意欲のある人と、労働力を求める事業者」をつなぐ「プラットフォーム」を提供  
→ 危険作業・重労働からの負担軽減、現場に行けない多くの人々に社会参加の機会を創出 など



### 川崎重エグループ

- ロボティクス
- 陸・海・空の輸送機器・システム
- エネルギープラント（社会インフラ）
- パーソナルモビリティ



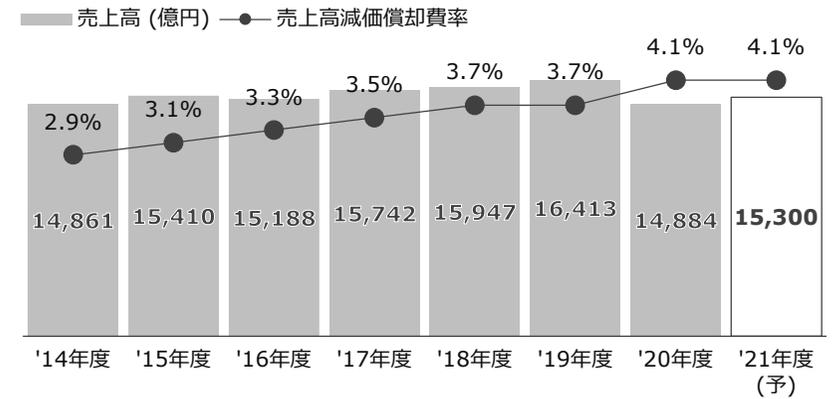
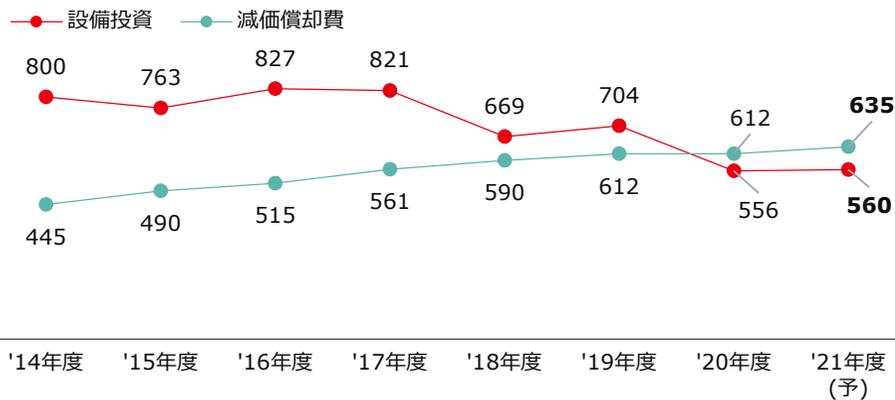
### ソニーグループ

- センシング技術
- 画像信号処理技術
- ネットワーク通信技術
- クラウド・データ解析
- UX/UI



(単位：億円、名)

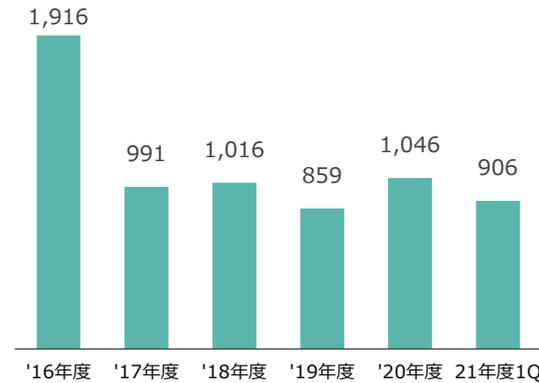
	'20年度 1Q実績	'21年度		'20年度 通期	'21年度	
		1Q実績	前年同期比		予想	前期比
設備投資	142	<b>105</b>	▲ 36	556	<b>560</b>	+ 4
減価償却費	149	<b>148</b>	▲ 1	612	<b>635</b>	+ 23
研究開発費	81	<b>88</b>	+ 7	449	<b>495</b>	+ 46
従業員数(期末)				36,691	<b>37,300</b>	+ 609
うち国内				26,901	<b>27,400</b>	+ 499
うち海外				9,790	<b>9,900</b>	+ 110



## ● 受注残高 (億円)

	'20年度1Q	'21年度1Q	
	実績	実績	増減
航空宇宙システム	5,468	<b>4,968</b>	▲ 499
車両	4,858	<b>4,238</b>	▲ 620
工程机械・ソリューション&マリン	4,607	<b>4,649</b>	+ 42
精密機械・ロボット	560	<b>767</b>	+ 207
モーターサイクル&エンジン	-	-	-
その他	256	<b>243</b>	▲ 12
合計	15,751	<b>14,868</b>	▲ 882

## ● 船舶海洋 受注残高の推移 (億円)



## ● 地域別売上高 (億円)

	'20年度1Q	'21年度1Q	
	実績	実績	増減
日本	1,484	<b>1,452</b>	▲ 31
米国	564	<b>909</b>	+ 345
欧州	349	<b>356</b>	+ 7
アジア	498	<b>671</b>	+ 173
その他	109	<b>165</b>	+ 55
合計	3,006	<b>3,556</b>	+ 550

※ 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しています

## ● 船種別完工年度 (隻)

	'21年度		'22年度	'23年度	'24年度	受注残
	1Q実績	2Q以降	予定			
LNG運搬船	-	-	-	-	-	-
LPG運搬船	-	3	4	-	-	7
潜水艦	-	-	1	-	1	2
その他	-	-	-	-	-	-
合計	-	3	5	-	1	9

## ● セグメント別損益影響外貨量 (億USD)

	'20年度	'21年度	
	1Q実績	1Q実績	2-4Q予想
航空宇宙システム	0.8	<b>1.6</b>	6.3
車両	0.1	<b>0.4</b>	0.2
エネルギーソリューション&マリナ	0.7	<b>0.2</b>	1.8
精密機械・モット	0.4	<b>0.8</b>	1.1
モーターサイクル&エンジン	0.4	<b>1.2</b>	2.8
合計	2.4	<b>4.2</b>	12.2

※ 為替レートが1円変動することによる営業利益への概算影響額

## ● 売上加重平均レート (EUR/JPY)

'19年度実績	121.70
'20年度実績	124.61
'21年度1Q実績	131.63
'21年度2-4Q予想	128.00

## ● 損益影響外貨量 (億EUR)

'19年度実績	4.4
'20年度実績	3.2
'21年度1Q実績	0.9
'21年度2-4Q予想	2.4

※ 為替レートが1円変動することによる営業利益への概算影響額

世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する  
“Global Kawasaki”